

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立三ツ城小学校	校長	坂本 博司	生徒指導主事	富樫 真紀
取組事例名	『あいさつの花を咲かせよう』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
本校は登下校のときに、たくさんの地域の方が横断歩道などで見守って下さるが、大きな声で進んで挨拶ができにくい児童もいる。4月当初から校門で交通安全の見守りをしていても、挨拶の声が返ってこないことも多かった。そこで、挨拶をすることが地域への感謝の気持ちを伝える方法であることや挨拶のもつ意味を理解させ、率先して挨拶できる児童の育成を図った。	【人間関係形成】 挨拶を通して、地域や学校とつながることができる。 【社会参画】 挨拶を通して、主体性・積極性を高めている。 【自己表現】 自ら進んで挨拶をすることができる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
年に3回、生活目標に挨拶の項目を入れ、挨拶の生活目標のときには、生活委員会が中心となり、第1弾から第4弾へとステップアップできるような具体的な取組を企画した。 ●生活委員会の取組「挨拶の花」 校舎入口に立っている生活委員が、挨拶ができた人にシールを渡し、挨拶の木に貼る。 4月「挨拶の花 第1弾」 生活委員に挨拶ができたならシールをもらえる。 9月「挨拶の花 第2弾」 生活委員に、大きな声で、帽子をとって挨拶ができたなら、シールを渡す。また、挨拶の上手な人の名前を、放送で紹介する。 1月「挨拶の花 第3弾」 地域の人（緑のジャンパーを着て、登校の見守りをしている方）に挨拶ができたなら、何人の地域の人に挨拶できたか生活委員に伝え、シールを渡す。また、シールの多いクラスを毎日、放送で紹介する。 2月「挨拶の花 第4弾」 地域の人に挨拶ができたならもらえるシールを登校班ごと集め、たくさん集まったら、「地域とつながる挨拶缶バッジ」がもらえる。 ●「挨拶缶バッジ」の取組 三ツ城住民自治協議会と学校PTAの協働で、地域とつながる挨拶缶バッジをつくることを全校児童に伝え、生活委員がそのデザインを募集した。また、地域で登下校を見守って下さる地域の方の写真入り「支援者マップ」を作成し、今後活用していく予定である。	児童にめあてをもたせるために 第2弾では、大きな声で帽子を取って挨拶ができた人にシールを渡すようにした。生活委員が大きな声の基準が分かるようにお手本を示し、基準に達している児童にシールを渡すようにした。また、元気よく挨拶している児童の名前を放送で紹介した。 児童の意欲を高めるために 第3弾では、毎日の放送で、シールの数の多かったクラスを紹介するとともに、何人の地域の人に挨拶できたか、生活委員に報告したり、教室で挙手で示してもらったりした。他のクラスや友達のがんばりが刺激になるように、意欲を高めていった。 児童の頑張りを認め、価値付けるために 「地域とつながるあいさつ缶バッジ」を、挨拶をがんばっている登校班から渡し、全員に渡すことにしている。缶バッジは、地域の方にもつけていただき、地域と児童が同じバッジをつけることで、一体感をもたせ、地域と挨拶でつながっていることを実感できるようにしていく予定である。



3 成果と課題

毎朝、生活委員会が門に立ち、挨拶運動をした。生活委員から、声が小さいという課題が出され、「挨拶の花」運動を企画した。夏休みまでは、挨拶の声に変化が見られなかったが、9月の第2弾以降、挨拶が増え、生活委員も効果を実感していた。また、第3弾では、地域の人に挨拶をする運動をしたところ、地域の方からも「挨拶するようになった」と喜んでもらえるくらい、挨拶ができるようになった。しかし、「挨拶の花」運動が終わると、挨拶をしなくなる児童も多く、挨拶のもつ意味を理解させて継続させることに課題が残っている。
--